

堰 下 遺 跡

平成16年度 町単独道路改良工事(町道749・750号線)に伴う
埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

2005年

箕輪町教育委員会

序

箕輪町は伊那谷の北部にあり、豊かな自然に恵まれた、歴史と文化のある町です。先史の頃よりこの地の生み出す自然の恵みを求めて人々が暮らし始め、各時代を生きた先人達の努力によって今日の町の姿が築き上げられてきました。町内には、彼らが残した証である多くの遺跡が残されています。しかし、近年の開発の波により、こうした遺跡は徐々に消滅してきています。

町の北東に位置する南小河内区は、今回調査を行った堰下遺跡のほか、縄文時代から近世に渡る多くの遺跡が密集する地域です。特に、当地の南東部にある長野県史跡「上ノ平城跡」は、戦国時代まで使われていた城跡ですが、地域のシンボリックな存在として、住民の皆様の協力により、今も大切に保護されています。

今回の調査は、町単独道路改良工事（町道749・750号線）に先立って、町教育委員会が実施した堰下遺跡の緊急発掘調査報告書です。内容につきましては、本書の中で詳細に記してあります。こうした地道な調査の成果が、地域の歴史解明の一助になれば幸いに思います。

最後になりましたが、本事業の実施にあたり、多大なるご理解とご協力をいただきました耕作者の皆様並びに南小河内区の皆様をはじめ、調査にご尽力いただきました各関係者の皆様に、本書の刊行をもちまして心より感謝申し上げます。

箕輪町教育委員会

例 言

- 1 本書は、平成16年度に実施した、長野県上伊那郡箕輪町大字東箕輪3,234番地他に所在する、塚下遺跡の緊急発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の発掘調査及び整理作業等の記録保存業務は、箕輪町より委託を受け、箕輪町教育委員会が実施した。
- 3 本書の作成にあたり、赤松 茂、根橋とし子、大串久子が作業を分担した。
- 4 本書の執筆は、赤松 茂が行った。
- 5 本書の編集は、赤松 茂、根橋とし子が行った。
- 6 出土遺物及び図版写真類は、すべて箕輪町教育委員会が管理し、箕輪町郷土博物館に保存している。
- 7 本調査の実施及び本書の作成にあたり、下記の方々並びに機関にご指導ご協力をいただいた。記して感謝申し上げる。(敬称略)

上田千志、小林英男、小林通昭、丸山玲子、南小河内区、(財)長野県埋蔵文化財センター

凡 例

- 1 挿 図
 - ・挿図の縮尺は、各図の下部に表記(スケールを有するものも含む)した。
- 2 土層及び遺物観察
 - ・土層及び土器の色調は、『新版 標準土色帖』を用いて記してある。
 - ・出土磁器観察表の法量の単位はセンチメートル(cm)である。また、現存する数値は「()」、推定数値は「〈 〉」、計測不能は「一」で表している。
 - ・出土鉄製品と石器観察表の重量の単位は、グラム(g)で表している。法量は、現存する数値は「()」で、計測不能は「一」で表している。

本文目次

序

例言 凡例

本文目次

挿図目次 表目次

第1章 発掘調査の概要	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査概要と体制	2
第3節 調査日誌	2
第2章 遺跡の環境	3
第1節 地形と地質	3
第2節 歴史環境	4
第3章 調査結果	9
第1節 調査方法	9
第2節 土層堆積状況	9
第3節 遺構と遺物	11
1 掘立柱建物址	11
2 ビット	11
3 遺構外出土遺物	12
第4章 総括	13

参考・引用文献

図版

報告書抄録

挿 図 目 次

- | | | | |
|-----|------------------|-----|----------------|
| 第1図 | 調査位置図 | 第5図 | 1～10グリッド土層断面図 |
| 第2図 | 周辺遺跡分布図 | 第6図 | 1号掘立柱建物址実測図 |
| 第3図 | 調査区位置図 | 第7図 | ピット実測図 |
| 第4図 | 調査区グリッド設定図・遺構全体図 | 第8図 | 出土石器・磁器・鉄製品実測図 |

表 目 次

- | | | | |
|-----|----------------|-----|----------|
| 第1表 | 周辺遺跡一覧表 | 第4表 | 出土石器観察表 |
| 第2表 | 1号掘立柱建物址ピット一覧表 | 第5表 | 出土磁器観察表 |
| 第3表 | ピット一覧表 | 第6表 | 出土鉄製品観察表 |

第1章 発掘調査の概要

第1節 調査に至る経過

堰下遺跡は、箕輪町南小河内区に位置し、東方の山麓から流れる沢川によって形成された扇状地の北部に所在する。遺跡地からは眺望もよく、南方には仙丈ヶ岳、北東には守屋山を望むことができる。また、西方及び南方には、谷底を悠々と流れる天竜川と、それに沿うように発達した集落を望むことができる。遺跡地周辺は、県道19号線等の主要道路の沿線には宅地が立ち並ぶが、その他は水田や畑等の耕作地となっている。

今回、箕輪町より、町道749号線及び750号線の道路改良工事の計画が平成15年度に出され、用地が表記遺跡の包蔵地に当たることから、その保護処置について、箕輪町と町教育委員会との間で協議を重ねてきた。その結果、開発面積850m²を対象として、平成16年度において、発掘調査による記録保存を行うこととなった。



第1図 調査位置図 (1:25,000)

第2節 調査概要と体制

- 1 遺跡名 堰下遺跡
- 2 所在地 長野県上伊那郡箕輪町大字東箕輪3,234番地 他
- 3 事業期間 平成16年5月25日～17年3月31日
(発掘調査 平成16年5月25日～12月21日)
(整理作業 平成16年9月1日～17年3月31日)
- 4 事務局
教育長 小林通昭
生涯学習課長 藤原 久 (平成16年9月30日まで)
平井克則 (平成16年10月1日から)
文化財係長 鳥山久夫
同主幹 赤松 茂
同副主幹 有賀 治
臨時職員 中村孝子
- 5 調査団
調査団長 小林通昭
調査副団長 藤原 久 (平成16年9月30日まで)
平井克則 (平成16年10月1日から)
調査担当者 赤松 茂
調査員 根橋とし子
調査団員 有賀多恵子、泉沢徳三郎、大串 進、大串久子 (整理作業)、
小川 陽二、小木曾俊一 (整理作業)、春日 誠子、唐沢 清光、
小松 峰人、後藤主計、白鳥弘子 (整理作業)、征矢 三郎、
田中 忠男、中坪 恵子、中村 孝子、藤沢 具明、藤沢 達雄、
堀 五百治、堀内 昭三、松崎 伸子、向山 英人、山崎 朝男、
横内 紀八、吉川 正剛 (※50音順)

第3節 調査日誌

- 5月25日(火) 機材搬入。試掘グリッド10本を設定する。
- 5月26日(水) 調査初日。結団式実施。人力にてグリッドの掘削を始める。
- 5月27日(木) グリッドの掘削を継続。完掘グリッドから、写真撮影と測量を始める。
- 5月28日(金) 写真撮影・測量を行う。終了したグリッドの埋め戻しを行う。
- 6月24日(木) 1グリッド付近の表土剥ぎを重機にて行う。
- 6月30日(水)～7月3日(金) 遺構上面確認作業及び遺構の掘りを行う。
- 7月4日(木) 写真撮影と測量作業を行い、本日で調査終了。
- 12月21日(火) 工事立会いを行う。

第2章 遺跡の環境

第1節 地形と地質

箕輪町は、東は南アルプス、西は中央アルプスにはさまれた、南北70kmにも及ぶ伊那盆地の北部に位置する。また、諏訪湖を源とし、盆地の中央低地帯を南に流れる天竜川によって、町はほぼ東西に二分された形となっている。箕輪町を含む伊那盆地は、天竜川の低地帯から両アルプスの山頂に至って、大起伏地形となっており、その景観から「伊那谷」と呼ばれる。

伊那谷は本州内陸部の中でも多くの活断層が分布し、約10km幅にそれが集中する、きわめて活動的な構造盆地であることがわかっている。この地形は、第四期の地殻変動によって造り上げられた。

以前は、伊那谷の特徴を表すとして注目されていた段丘状の地形が配列している様子は、天竜川の侵食による河岸段丘と考えられていたが、現在はそれが中央・南両アルプスの上昇に伴う地殻変動の結果、断層によって造り出された断層崖である、ということが研究によってわかってきた。各地でこうした断層の調査が行われ、伊那谷の地形の歴史は以前より詳しく把握されつつある。そのようなことから、今後箕輪町においても、さらに詳しい調査がのぞまれるところである。



上空より遺跡地を望む(1:8,000 平成12年撮影)

堰下遺跡が所在する南小河内区は、天竜川の東側にあたり、いわゆる「竜東」とよばれる。箕輪町では、複合扇状地によって形成された広大で平坦な地形が続く竜西側に比べ、竜東側は小規模の山が近くにせまる変化に富んだ地形となっており、比較的平坦地が狭く、緩傾斜が続いている。基本的に一帯の地形を造り出している要因としては、南部は沢川及び知久沢川、北部は北小河内区を含む東部山麓から流れ出す中小河川の押し出しにより形成された複合扇状地である。現在では、耕作や造成に伴いわかりにくいのが、以前は、うねりを持ちながら西方に緩やかに傾斜する、というこの扇状地の特徴がもっと明瞭に現れていたと思われる。そして、遺跡の位置する場所は、この地より天竜川をはじめ、遡方まで見渡せる絶好の場所であったと思われる。

地形においては、竜西側は複合扇状地の形成に伴い、広く扇状地の堆積物で覆われている。それに対し竜東側では、花崗岩や粘板岩などを中心とし、頽変成岩からなる結晶質石灰岩や石英斑岩が分布するなど、変化に富んだ地質になっている。また、伊那谷を覆っている被覆層は竜西側では厚く、基盤岩の露出は少ないのに比べ、竜東側の被覆層は比較的浅く、断片的である。そのため、天竜川の支流の谷沿いには基盤岩が露出し、天竜川の合流点まで続いている。

引用参考文献

- 伊那市教育委員会・上伊那教育事務所 小黒南原・伊勢並遺跡 緊急発掘調査報告書 1992.3
松島信幸 伊那谷の造地形史 伊那谷の活断層と第四期地質 1995.3.31

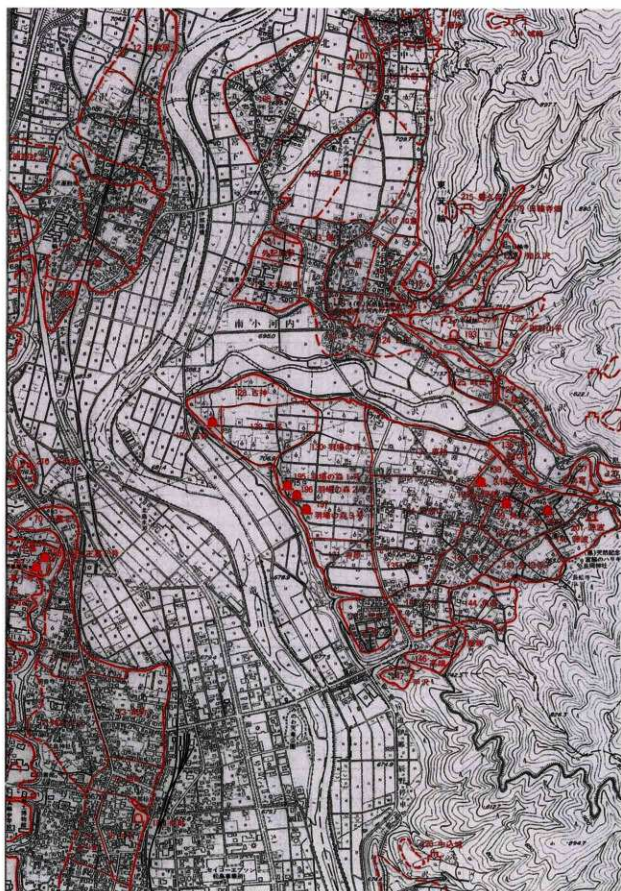
第2節 歴史環境

箕輪町は、東西の複合扇状地を流れる中小河川や段丘下の湧水など水源に恵まれており、先史より人が暮らしやすい格好の場が多い。町内には、先人たちの足跡ともいべき多くの遺跡が残されており、平成6～8年度に実施した遺跡詳細分布調査により、包蔵地182箇所、古墳27基、城跡13箇所を確認し周知されている。

今回調査対象となった本遺跡を含む天竜川左岸北部地域（南・北小河内区）は、集落遺跡を中心として、地形的な特徴によって遺跡の分布を観ることができる。主に、段丘突端または扇端部に広がる遺跡と、山裾（扇頂部）及び山から伸びる舌状台地に点在する遺跡とに分けられるが、堰下遺跡のように、比較的狭い範囲ではあるが扇端部にも遺跡がみられる。これまで実施された当地域における発掘調査の事例から、これらを代表する遺跡について概観しておく。

まず、段丘突端または扇端部の遺跡としては大垣外遺跡（112）がある。この遺跡では、箕輪東小学校の施設改築等に先立って平成元・4・5年度の過去三回にわたって調査が行われ、縄文時代中期初頭の住居址や土坑群が検出されている。特に、第2次調査で検出した住居址からは、「河童型」の土偶頭部が出土しており、町内では最も古いものとして位置付けられている。

次に、山裾及び舌状台地では、昭和63年に箕輪ダム関連公園整備事業に先立って、普濟寺遺跡の調査が行われ、縄文時代中期初頭の上坑群及び集石炉と、古銭・内耳鍋・石臼等を伴う室町～戦国時代の火葬墓と思しき遺構が検出されている。また、平成10～12年度には、長野県史跡上ノ平城跡（121）において、主郭を中心に、史跡保存を目的とした内容確認調査を実施している。城跡は、これまで平安時代末に築城された県内でも古式な城と考えられてきたが、調査では室町～戦国時代にも城として使用されていたことがわかり、主郭の外周に土塁が巡らされていたこと、また下段の二の郭との間に埋没した空堀が築かれていたことなど、新しい発見があった。

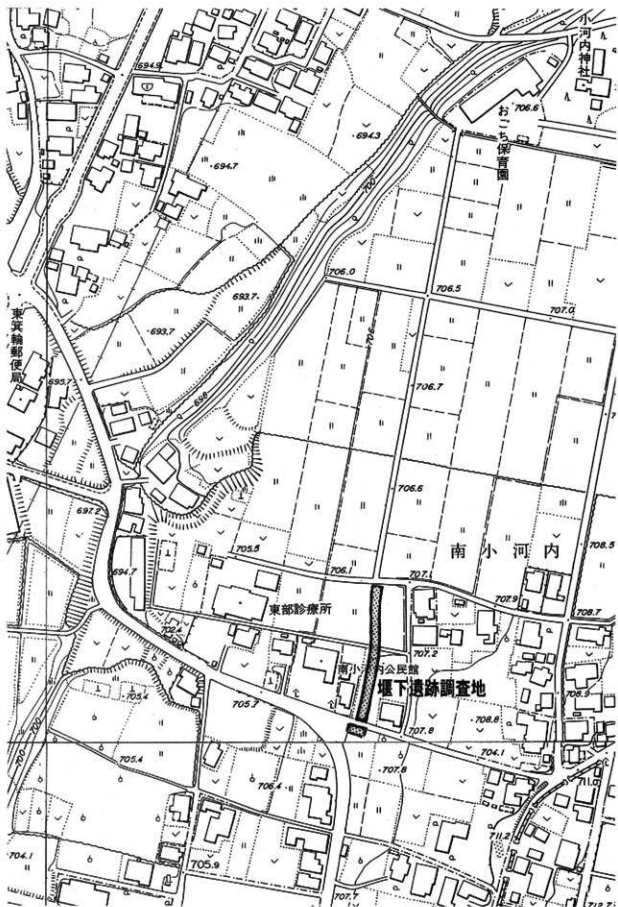


第2図 周辺遺跡分布図 (1:2,500)

なお、東部山間部の尾根上には、土塁・空堀・郭等を有する山城が確認されている。いずれも城の規模としては小さなものが多く、狼煙台や物見台などの中継所的役割の施設ではないかと推測される。これらは、主に室町～戦国時代に機能を果していたものと考えられるが、詳細な調査は行われておらず、その内容は不明な点が多い。

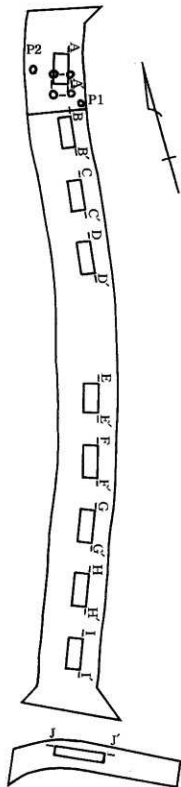
遺跡番号	遺跡名	所在地	時代					立地	地目	調査履歴	備考			
			旧	縄	弥	古	奈					中	近	
113	下環	南小河内	○					○	○	○	扇尖	宅地・畑・田		
104	中環	北小河内	○	○	○			○	○	○	扇頂	宅地		
106	大庭平	＊	○					○	○	○	扇頂	宅地・畑		
107	松の木畑	＊		○				○	○	○	扇尖	田		
108	宮平	＊	○					○	○	○	段丘突端	宅地・畑		
109	北田	南小河内	○					○	○	○	段丘突端	宅地・田	平4・16	
110	和	＊						○	○		扇頂	畑		
111	外記屋敷	＊	○					○			段丘突端	畑		
112	大庭外	＊	○					○	○	○	段丘突端	宅地・畑	平元・4・6	
114	町	＊	○					○	○	○	扇尖	宅地・畑		
115	山本	＊	○					○	○	○	扇頂	宅地・畑		
116	殿屋敷	＊	○					○	○	○	扇尖	宅地・畑		
117	日向前	＊	○					○	○	○	扇頂	宅地・畑		
118	養濟寺	＊	○					○	○		台地	宅地・畑	昭63	
119	日輪寺畑	＊	○	○				○	○	○	台地	宅地・畑	城跡含む	
120	知久沢	＊	○					○	○		扇頂	宅地・畑		
121	上の平	＊	○	○	○			○	○	○	台地	畑・荒地	平11・12 城跡含む	県史跡
122	御射山平	＊	○					○	○		台地	畑		
123	さがり	＊	○					○		○	扇尖	宅地・畑・田		
124	日西	＊	○	○				○			扇頂	出		
125	畔田	＊	○					○			扇頂	畑・田		
126	畑沢	＊	○	○				○	○		扇頂	宅地・畑		
128	古神	長岡	○	○	○			○	○		扇尖	畑・田	平2	
129	春名	＊	○	○				○	○	○	段丘突端	畑・田		
130	羽場の森	＊	○	○				○	○	○	段丘突端	畑・田		
133	直路	＊	○					○	○	○	扇尖	宅地・畑		
134	馬瀬山	＊	○	○				○	○	○	扇尖	宅地・畑		
136	樋口	＊	○								扇尖	宅地・畑		
137	北宮	＊	○					○	○		扇尖	宅地・畑		
138	久保畑	＊	○	○				○	○	○	扇尖	宅地・畑		
139	大門	＊	○	○				○	○	○	扇尖	宅地・畑		
140	原波	＊	○	○				○	○		扇頂	宅地・畑	昭62	
193	上の平	南小河内	○								台地	畑		
195	羽場の森1号	長岡	○								段丘突端	畑		町史跡
196	羽場の森2号	＊	○								段丘突端	畑	平10	町史跡
197	羽場の森3号	＊	○								段丘突端	畑		町史跡
198	久保畑	＊	○								扇頂	畑		
199	角畑	＊	○								扇尖	宅地		
200	徳円	＊	○								扇尖	宅地・畑		別称 大門古墳
201	原波	＊	○								扇頂	運動場	昭62	町史跡
214	城峰	北小河内						○			山頂	林		
215	久保	南小河内						○			山頂	林		

第1表 周辺遺跡一覧表



第3図 調査区位置図 (1:2,500)

BM(707.201m)



(1:500)
0 10m

第4図 調査区グリッド設定図・遺構全体図

第3章 調査結果

第1節 調査方法

調査は、まず遺構の有無を確認するための試掘調査を行った。その結果、全10グリッド中、1グリッドからのみ遺構が検出されたため、このグリッドを拡幅し、発掘調査を行うこととなった。

発掘調査の手順としては、まず大型重機により遺構確認層直上までの表土を除去し、続いて人力による遺構検出作業を進め、検出した各遺構の掘り下げ、土層堆積状況・検出遺構平面図等の測量及び写真撮影による記録作業、遺物の取り上げの順で作業を行った。遺構及びグリッドの測量作業は、平面図は平板と簡易遣り方による1:10又は1:20の縮尺で作図した。土層断面も1:10の縮尺で作図した。写真撮影は、基本的に35mm一眼レフカメラでモノクロとカラーリバーサルフィルムによる撮影を行い、また、必要に応じて同2種のフィルムで6×7カメラを使用した。遺構及び出土遺物の記録における測量基準線は、調査地全城を国家座標の基準線を重ねて50mの大グリッドを設定し、更にそこから10mの小グリッドに分割した。標高の基準は、近接する基準点から標高移動し、調査区北側の道路北に任意のベンチマーク(707.201m)を設定した。

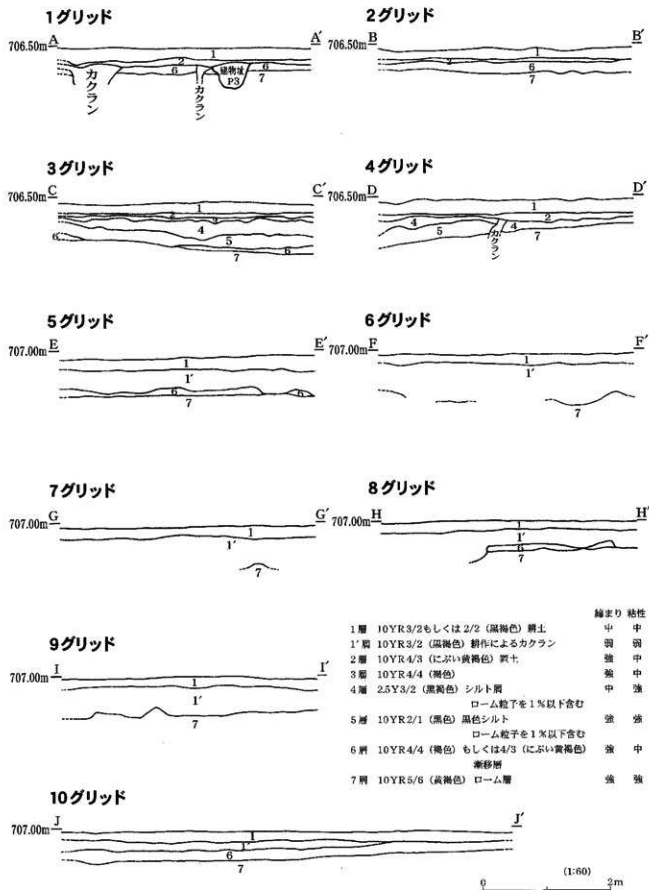
第2節 土層堆積状況(第5図)

調査地は、1~4グリッドまでが水田、5~10グリッドまでが畑として使用されていたため、土層堆積状況が若干異なる。

1~4グリッドは、上位から、旧水田の耕作土(1層)、水田造成時の置土(2層)、ローム(テフラ)の漸移層(6層)、ローム(テフラ)層(7層)となっており、6層上面で遺構を確認し、7層まで掘り込まれる。なお、2層と7層の間に3グリッドで褐色の自然堆積土(3層)、3・4グリッドでは黒褐色シルト層(4・5層)を確認した。

5~10グリッドは、上位から、旧畑の耕作土又は耕作によるカクラン(1層・1'層)、ローム(テフラ)の漸移層(6層)、ローム(テフラ)層(7層)であった。

なお、各層の詳細については次頁を参照されたい。



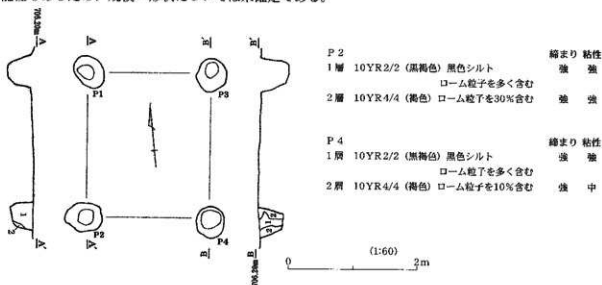
第5図 1~10グリッド土層断面図

第3節 遺構と遺物

1 堀立柱建物址

1号堀立柱建物址(第6図)

位置: 調査地北部に位置し、ピット1、2と隣接する。**長軸方向:** N-7°-E。規模・形状: 平面規模は南北方向(長軸)に2.31m、東西方向(短軸)に1.98mを測る。柱穴配列は長方形を呈する。**柱穴:** ピット4基で構成される。平面規模は直径40~56cmを測り、深さは36~40cmを測る。**覆土:** ピット2及び4は2分層され、ピット3は単層であったが、いずれも締まりは強かった。**遺物:** なし。**時期・性格:** 出土遺物が無いため不明であるが、隣接する北田遺跡で奈良時代の堅穴住居址が見つかったことなどから、奈良時代ではないかと思われる。なお、本遺構は、今回の調査対象区域外まで及んでいる可能性もあるため、規模・形状については未確定である。



第6図 1号堀立柱建物址実測図

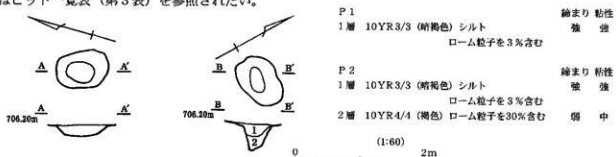
法量: cm

ピット番号	平面形	長軸	短軸	深さ	床の状況	壁	覆土	遺物	備考
1	楕円形	56	40	(35)	ほぼ平坦	ほぼ垂直	単層	なし	
2	楕円形	56	44	36	傾斜する	ほぼ垂直	2層でローム粒子が含まれる	なし	
3	楕円形	53	43	(34)	ほぼ平坦	ほぼ垂直	単層	なし	
4	円形	50	44	40	やや傾斜する	ほぼ垂直	2層でローム粒子が含まれる	なし	

第2表 1号堀立柱建物址ピット一覧表

2 ピット

2基のピットが確認された。いずれも調査地北部に位置する。出土遺物が無いため時期は不明。詳細はピット一覧表(第3表)を参照されたい。



第7図 ピット実測図

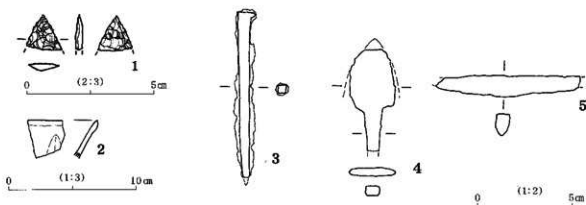
(法量: cm)

ピット 番号	平面形	長軸	短軸	深さ	床の状況	壁	覆土	遺物	備考
1	楕円形	58	41	12	平坦	傾斜する	単層	なし	
2	楕円形	62	37	28	傾斜する	ほぼ垂直	2層でローム粒子が含まれる	なし	

第3表 ピット一覧表

3 遺構外出土遺物

今回の調査では、遺構に伴わない遺物として、以下のものが出土している。縄文時代の遺物としては、黒曜石の石鏃(1)が1点出土しているが、下部は欠損している。また、縄文土器片が数点出土している。古代の遺物としては、土師器片が数点出土している。また、表面採取では須恵器片が1点確認されている。中世の遺物としては、中国竜泉窯産と思われる輸入磁器(2)が1点出土しているほか、陶器片等が数点出土している。このほか、時期は不明であるが、鉄製品が数点出土している。出土遺物の詳細については各表を参照されたい。



第8図 出土石器・磁器・鉄製品実測図

(法量: cm・g)

番号	遺構名	器種	材質	長さ	厚さ	幅	重さ	備考
1	7トレンチ	石鏃	黒曜石	(1.3)	(0.3)	(1.4)	(0.4)	基部欠損

第4表 出土石器観察表

(法量: cm・μ)

番号	遺構名	種類	器種	法量	成形・文様 (調整)	色調	胎土	焼成	備考
2	6トレンチ	青磁	碗	—	—	10GY6/1(緑灰)	良好	良好	口縁部のみ

第5表 出土磁器観察表

(法量: cm・g)

No.	遺構名	器種	材質	長さ	厚さ	幅	重さ	備考
3	6トレンチ	角釘	鉄	(8.8)	—	0.7	(10.2)	ほぼ完形 風化が著しい
4	7トレンチ	鉄鏃	鉄	(5.3)	(0.5)	(2.4)	(14.0)	平根、有茎鏃? 風化が著しい
5	遺構外	刀子	鉄	(7.6)	0.8	1.1	(8.3)	風化が著しい

第6表 出土鉄製品観察表

第4章 総 括

今回の発掘調査は、広範囲に及ぶ遺跡の一部という事もあり、また、出土した遺構・遺物も僅かであったため、遺跡全体の様相を明らかにする事はできなかった。しかし、本遺跡では初めての調査であり、遺跡の性格の一端を解明する事ができた事は大きな成果であったと言える。ここでは、今回の調査の成果と、隣接する北田遺跡の調査の成果や、近世の古地図の情報などを参考として、総括としたい。

今回の調査地のうち、1～4グリッドは旧水田、5～10グリッドは旧畑であったと思われる。地形的には北側が高く、南へ向かって傾斜していく傾向を示し、標高が高い北側が水田、低い南側が畑であった。1～10グリッドのうち、遺構が確認できたのは一番北側の1グリッドだけであり、そのほかのグリッドでは確認できなかった。今回の調査地の西側で平成4年度に実施した北田遺跡第1次発掘調査でも、遺構は調査地北側でのみ確認され、地形も北から南へ緩やかに傾斜する地形であった。明治時代の土地台帳により小字を確認すると、調査地周辺は「三ツ谷」という小字であり、その西側の段丘先端は「蟹洞」という小字であった。こうしたことから、今回の調査地を含む一帯（特に5～10グリッドの範囲）は、東の山裾から西へと続く洞地形の内部であったのではないかとと思われる。近世の古絵図（宝永頃のもの等）にも、村内を流れる大堰（用水）が集落から水田地帯にかかる当該地付近から、段丘下の宮下集落に向かって流れる小河川（水路）が記されており、この洞地形、又は北田遺跡第2次調査で検出した溝状遺構が、これに該当する可能性が考えられる。いずれにしても、調査地の大半が洞地形に該当したため遺構が少なく、唯一遺構が確認された1グリッド周辺から北側にかけて、遺跡が展開していくものと思われる（洞地形の南側も同様か？）。

検出された遺構は、掘立柱建物址1棟、ピット2基であった。このうち掘立柱建物址は、出土遺物が無いため、その時期については不明であるが、隣接する北田遺跡の第2次発掘調査では、奈良時代の竪穴住居址1軒、土坑4基、室町時代から戦国時代にかけての竪穴建物址及び溝状遺構などが確認されている。この一帯は、大堰（用水）開削以後は、水田地帯であったと思われる。大堰（用水）の開削時期については、これまでの通説では近世初頭頃ではないかと推測されているが、長享2年（1488）の『春秋之宮造營之次第』（『信濃史料叢書』）には、既に小河内という地名が記載されていることから、中世まで遡る可能性も考えられる。こうしたことから、概ね中世～近世以後は、調査地周辺（主に1～4グリッドより北側）は水田であったと思われ、掘立柱建物址はそれ以前、隣接する北田遺跡で出土している竪穴住居址と同様に奈良時代頃のものではないかと推測される。そして、前述したように中世～近世以後は概ね水田であったと思われるため、当遺跡（北田遺跡含む）の主体は、縄文時代及び奈良・平安時代ではないかと思われる。

ここまで推論を交えて考察してきたが、いずれにしても本遺跡の内容を解明するためには、更なる調査が必要であると思われる。

本書の末筆にあたり、調査の成果が郷土の歴史を解明する上で有意義に活用され、より多くの皆様に文化財保護にご理解いただければ幸いに存じます。調査の進行と本書の作成にあたり、ご支援ご協力をいただきました地元南小河地区の皆様、そして調査にご協力いただきました全ての方々へ厚く御礼申し上げます。

■ 参考・引用文献 (著者名 50音順)

- | | | |
|--------------|--------|-------------------------------------|
| 安城市歴史博物館 | 1996 | 『愛知県の中世冬季 渥美・常滑・瀬戸』 |
| 上伊那郡誌編纂会 | 1965 | 『上伊那誌』第2巻 歴史編 |
| 国立歴史民俗博物館 | 1998 | 『陶磁器の文化史』 |
| 小泉 弘 | 1990 | 『江戸を掘る』柏書房 |
| 信濃史料刊行会 | 1972 他 | 『新編信濃史料叢書』第二巻他 |
| 瀬戸市史編纂委員会 | 1969 | 『瀬戸市史 陶磁史篇1』 |
| 瀬戸市史編纂委員会 | 1993 | 『瀬戸市史 陶磁史篇4』 |
| 辰野町教育委員会 | 1995 | 『堀の内居館跡』 |
| 帝京大学山梨文化財研究所 | 1990 | 『シンポジウム
考古学と中世史研究—中世考古学及び隣接諸学から』 |
| 長野県教育委員会 | 1983 | 『長野県の中世城館跡—分布調査報告書—』 |
| 長野県史刊行会 | 1988 | 『長野県史』考古資料編 全1巻(1) 遺跡地名表 |
| 長野県史刊行会 | 1988 | 『長野県史』考古資料編 全1巻(2) 中・南信版 |
| 長野県史刊行会 | 1988 | 『長野県史』考古資料編 全1巻(4) 遺構・遺物編 |
| 箕輪町教育委員会 | 1989 | 『普濟寺遺跡』 |
| 箕輪町教育委員会 | 1990 | 『大垣外遺跡』 |
| 箕輪町教育委員会 | 1992 | 『郷沢遺跡』 |
| 箕輪町教育委員会 | 1993 | 『北田遺跡』 |
| 箕輪町教育委員会 | 1993 | 『大垣外遺跡』第2次 |
| 箕輪町教育委員会 | 1994 | 『大垣外遺跡』第3次 |
| 箕輪町教育委員会 | 1997 | 『箕輪町遺跡詳細分布調査報告書』 |
| 箕輪町教育委員会 | 1999 | 『上ノ平城跡』—平成10年度第1次試掘調査概報— |
| 箕輪町教育委員会 | 2001 | 『上ノ平城跡』 |
| 箕輪町教育委員会 | 2001 | 『荒城遺跡』 |
| 箕輪町誌編纂刊行委員会 | 1976 | 『箕輪町誌』第1巻 自然・現代編 |
| 箕輪町誌編纂刊行委員会 | 1986 | 『箕輪町誌』第2巻 歴史編 |



調査前 (北から)



調査前 (南から)



1~4トレンチ (北から)



5～9トレンチ (南から)



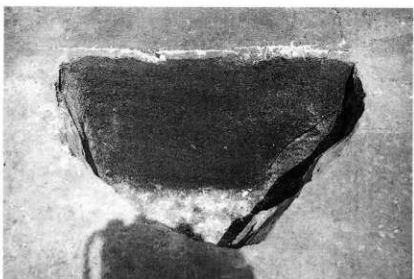
1トレンチ



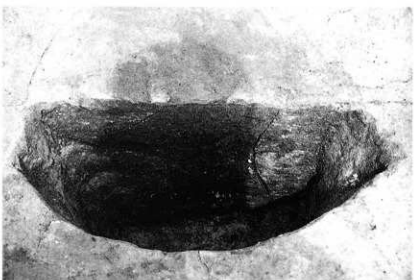
1トレンチ断面



1号掘立柱建物址



1号掘立柱建物址 ビット1断面図



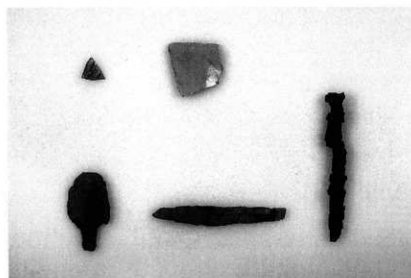
1号掘立柱建物址 ビット2断面図



ピット1



ピット2



出土遺物

報告書抄録

ふりがな	せぎしたいせき							
書名	堰下遺跡							
副書名	平成16年度 町単独道路改良工事（町道749・750号線）に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
著者名	赤松 茂							
編集機関	箕輪町教育委員会							
所在地	長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪10,291番地 Tel 0265-79-3111 (代)							
発行年月日	2005年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
せぎしたいせき 堰下遺跡	ながのけんかみいなでん 長野県上伊那郡 みのおまもとおあざ 箕輪町大字 ひがしみのわ 東箕輪3,234番地 他	20383	113	35° 56' 05"	137° 59' 47"	2004.5.26 ～ 2005.3.31	850	道路改良 工事
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
堰下遺跡	集落址	奈良時代	掘立柱建物址1棟 ピット 2基	縄文土器、 土師器、須恵器、 陶器、磁器、石器、 鉄製品		奈良時代の掘立柱 建物址		
要約	調査地南側の旧畑地は、根菜類の栽培による攪乱を受け、土器等の遺物が出土するのみで、遺構の確認はできなかった。北側の旧水田は、土地改良による破壊をほとんど受けておらず、掘立柱建物址等の遺構を確認した。							

堰 下 遺 跡

平成16年度 町単独道路改良工事(町道749・750号線)に伴う
埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

平成17年 3月

編集・発行 箕輪町教育委員会

印 刷 有限会社 工藤写植

